



株式会社ELEMENTS | 2026年10月

2026年11月期 3Q決算説明資料

中期財務目標と2026年11月期の位置づけ

- 2026年11月期は、中長期的な利益拡大を最大化するための助走時期として位置づけ。

長期目標	● グループミッション Beyond Science Fictionの実現 ● loPクラウドを通じた社会課題の解決	
中期方針	● 継続的な投資と成長を可能とする仕組の構築 ←高水準の売上高成長の実現（売上成長率：+30%）による営業CFの創出 ←資本構成の最適化に向けた取組の実施	
2026年11月期 方針	基本方針	● eKYCの強固な利益創出基盤構築と中期的な利益最大化のための投資の継続 ● パスキーを主軸とする認証分野ソリューションのシェア拡大とポラリファイPMIの完了 ● 「第2の柱」として位置付けるプロダクトへの投資継続
	財務目標 (2026年7月修正値)	● 全社売上：5,600～5,700百万円（対前年比：+43%～46%） ● 個人認証売上高：5,575～5,675百万円（対前年比：+44%～47%） ● EBITDA^(*1)：1,100～1,200百万円（対前年比：+307%～344%） ● 営業利益：300～400百万円（営業黒字への回復）

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

ハイライト

財務ハイライト

- LIQUID eKYCの好調により、**四半期売上は過去最高となる1,530百万円で着地**（前年同期比+49%）。
- **営業利益は130百万円**（前年同期比+283百万円）**EBITDA^(*1)は341百万円**（前年同期比+361百万円）にて着地。**親会社株主に帰属する当期純損益も113百万円**（前年同期比+284百万円）と黒字での着地。

各種トピック

個人認証の拡大

- 「対面KYC専用アプリ」の開発を開始、ドコモショップ及びドコモ取扱店での利用開始
- 「LIQUID Auth」が提供したパスキーの累計認証件数が15億件を突破

AiQ PERMISSION

- コスモ石油販売株式会社の運営するサービスステーションにて利用開始

2026年11月期 通期業績予想

- 足許業績を踏まえ、通期業績予想のレンジを上限値へ切り上げた修正を実施
- **前回予想 売上高：5,600百万円～5,700百万円 営業利益：300百万円～400百万円**
- **修正予想 売上高：5,700百万円 営業利益：400百万円**

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

目次

- 01 | 2026年11月期 3Q業績ハイライト
- 02 | 各種トピック

Appendix

目次

01 | 2026年11月期 3Q業績ハイライト

02 | 各種トピック

Appendix

2026年11月期 第3四半期業績 業績ハイライト（四半期）

売上高

- LIQUID eKYCが好調
- **前年同期比+49%・1,530百万円**と過去最高を更新

売上総利益率・販管費

- 売上総利益率は**78.2%**で着地（ポラリファイ除き：**87.3%**）
- 販管費は前年同期比+17%の1,065百万円で着地となったものの**売上高販管費比率は69.6%と前年同期比▲18.5pt**と改善

利益

- 営業利益**130百万円**・EBITDA^(*1)**341百万円**・親会社株主に帰属する当期純損益**113百万円**でいずれも黒字着地

（百万円）

	FY25Q3 実績	FY26Q3 実績	前年同期比	
売上高	1,030	1,530	500	+49%
（個人認証売上高）	1,018	1,523	505	+50%
売上総利益	754	1,196	442	+59%
売上総利益率	73.2%	78.2%	+5.0pt	-
販売費および一般管理費	907	1,065	158	+17%
EBITDA ^(*1)	▲20	341	361	-
営業損益	▲153	130	283	-
親会社株主に帰属する当期純損益	▲171	113	284	-

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

2026年11月期 第3四半期業績 業績ハイライト（累計）

（百万円）

売上高

- ポラリファイ連結化及びLIQUID eKYCの好調
- **前年同期比+59%・4,329百万円**と過去最高を更新

売上総利益率・販管費

- 売上総利益率は**前年同期比▲0.7ptとほぼ同水準の77.9%**で着地（ポラリファイ除き：**87.5%**）
- 販管費は前年同期比+28%の2,915百万円の着地。

利益

- 営業利益**457百万円**・EBITDA^(※1)**995百万円**・親会社株主に帰属する当期純損益**410百万円**でいずれも黒字着地

	FY25Q3 累計	FY26Q3 累計	前年同期比	
売上高	2,721	4,329	1,608	+59%
（個人認証売上高）	2,689	4,309	1,620	+60%
売上総利益	2,139	3,373	1,234	+58%
売上総利益率	78.6%	77.9%	▲0.7pt	-
販売費および 一般管理費	2,275	2,915	640	+28%
EBITDA ^(※1)	219	995	776	+354%
営業損益	▲136	457	593	-
親会社株主に 帰属する 当期純損益	▲622	410	1,032	-

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

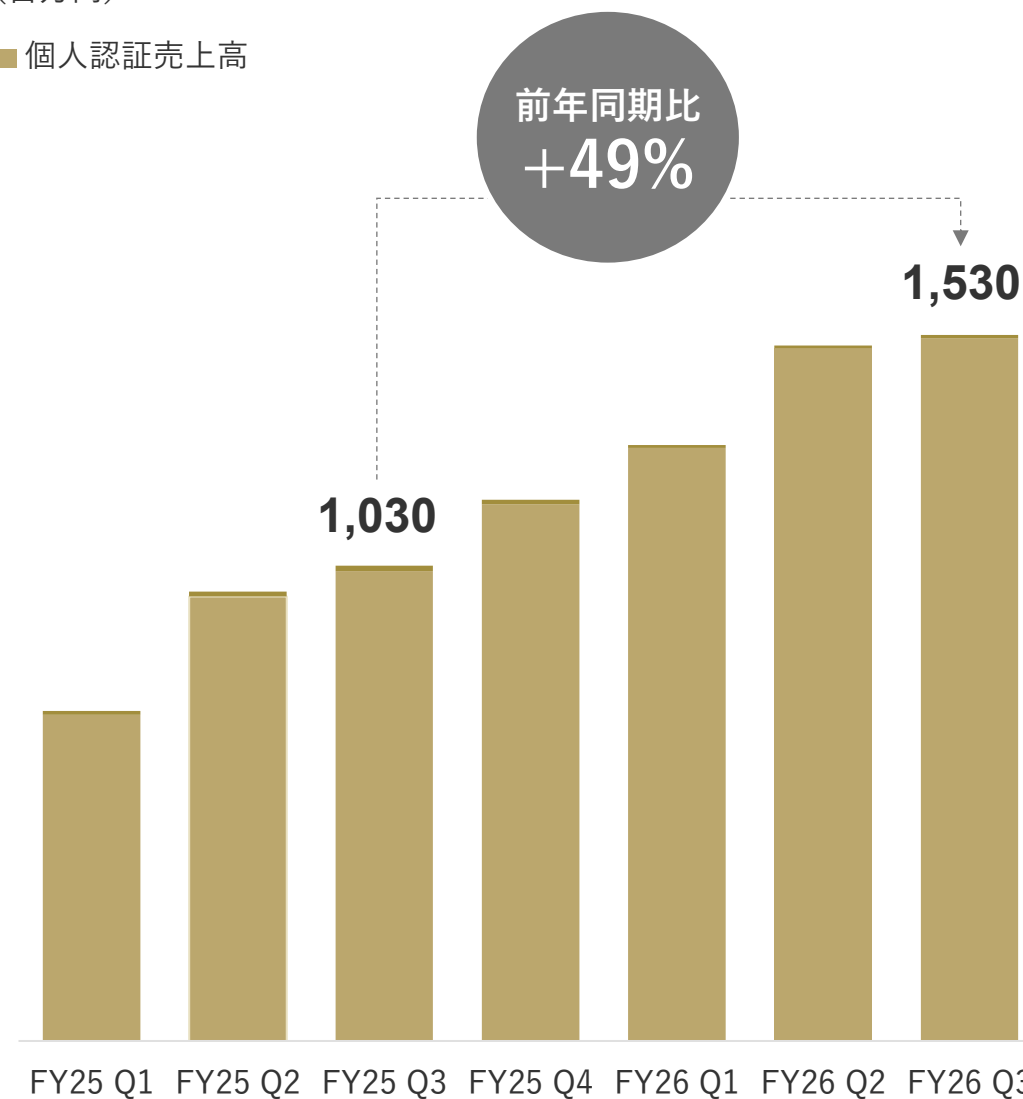
2026年11月期 第3四半期業績 売上について

売上高

- 累計契約社数の拡大等もありLIQUID eKYCが好調
- **前年同期比+49%・1,530百万円**と過去最高を更新

(百万円)

■ 個人認証売上高



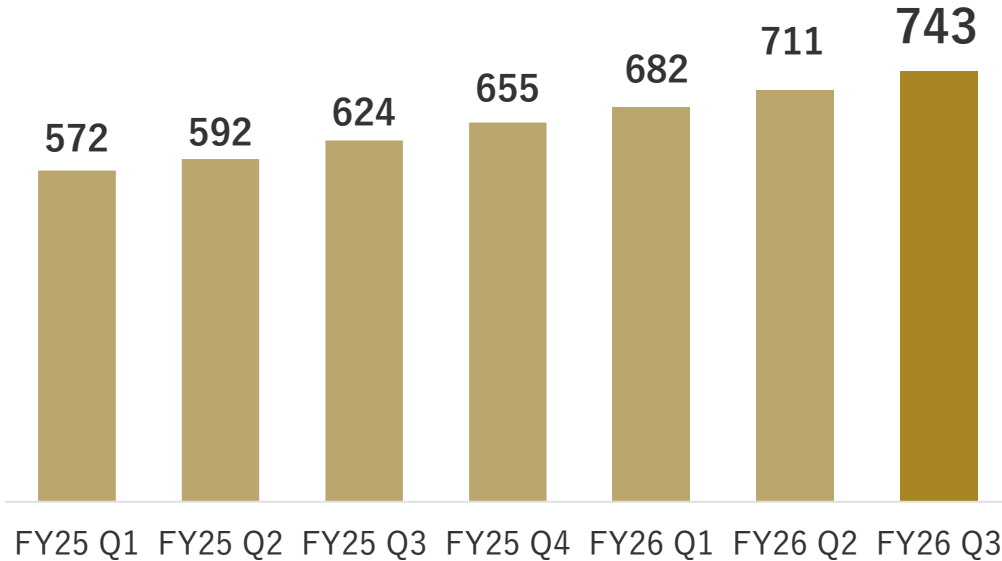
累計契約社数・パスキーの累計認証件数

- 2026年8月末時点のグループ全体の累計契約社数は**前四半期比+32社の743社まで拡大**
- 「LIQUID Auth」が提供したパスキーの累計認証件数が**15億件を突破**

累計契約社数（合算）

（単位：社）

前四半期比
+32社



パスキーの累計認証件数が15億件を突破^(*1)

リキッドオースパスキー

LIQUID Auth Passkey の

累計認証件数

15億件突破！



*1 URL : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000164.000061051.html>

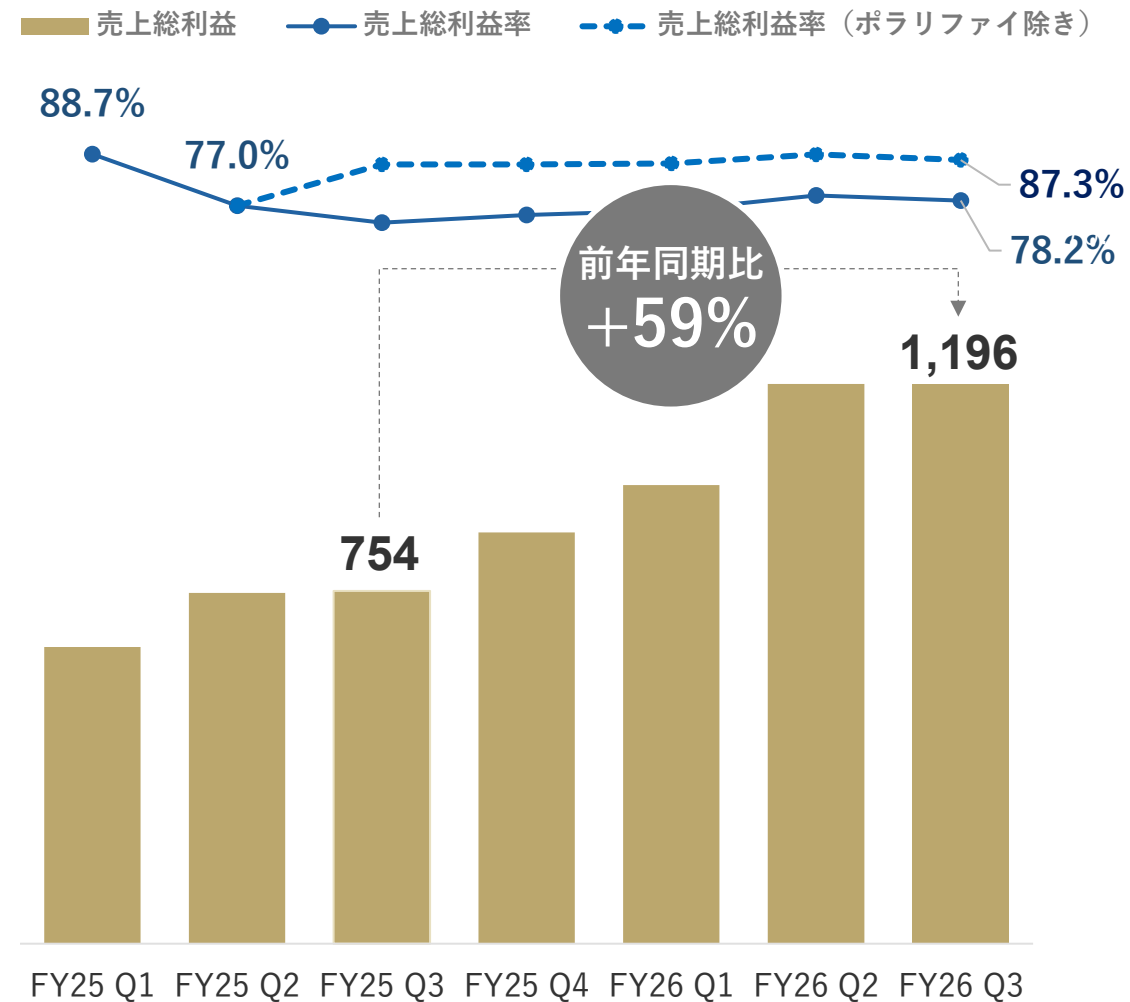
2026年11月期 第3四半期業績 売上総利益について

売上総利益

- **1,196百万円**で着地、**前年同期比+59%**の増加

売上総利益率

- ポラリファイの連結取込の影響で、78.2%にて着地
- ポラリファイ除きの売上総利益率は**87.3%と高水準を維持**



2026年11月期 第3四半期業績

販売費および一般管理費の推移

販管費全体

- 前年同期比+17%の1,065百万円で着地となったものの**売上高販管費比率は69.6%と前年同期比▲18.5pt**と改善

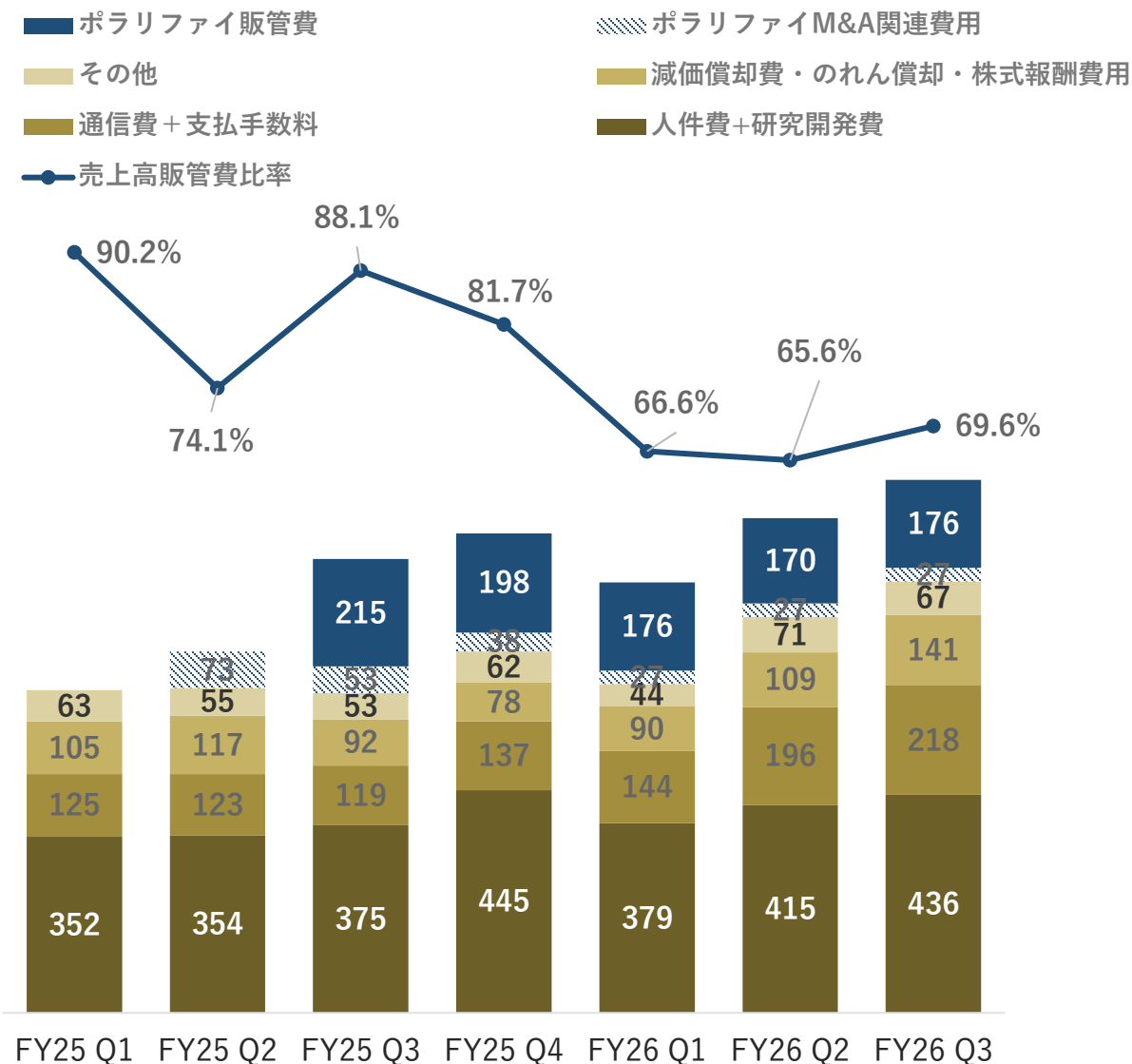
販管費_ポラリファイ

- ポラリファイM&A関連費用^(*)は、のれん償却額のみ発生
- ポラリファイの販管費も、連結化開始時の215百万円から176百万円へ▲39百万円低減。通信費・人件費を中心に低減しており、PMIは順調に進捗

販管費_ポラリファイ以外

- 862百万円（前年同期比+223百万円）の着地
- 継続的な人員強化による人件費の増加に加え、第2の柱となるプロダクトへの投資等により費用が増加

(百万円)



*1 PMI関連費用および決算期の相違に伴う一時費用、並びにのれん償却額の合計

2026年11月期 第3四半期業績 営業利益の推移

営業利益

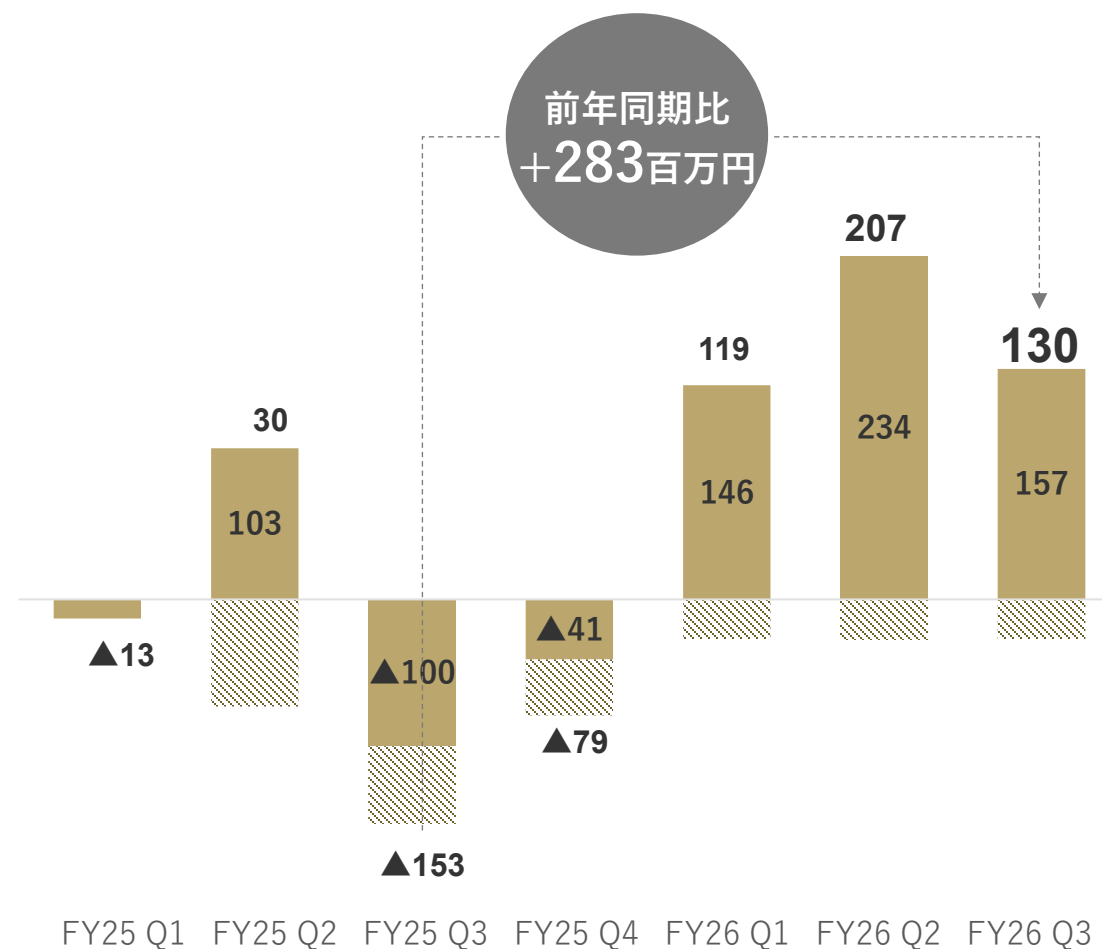
- **130百万円**で着地、**前年同期比+283百万円**の増加

ポラリファイM&A関連費用(*1)を除いた営業利益

- **157百万円**で着地、**前年同期比+257百万円**の増加

(百万円)

■ 連結 ※ ポラリファイM&A関連費用



*1 PMI関連費用および決算期の相違に伴う一時費用、並びにのれん償却額の合計

2026年11月期 第3四半期業績 EBITDAの推移

EBITDA(*1)

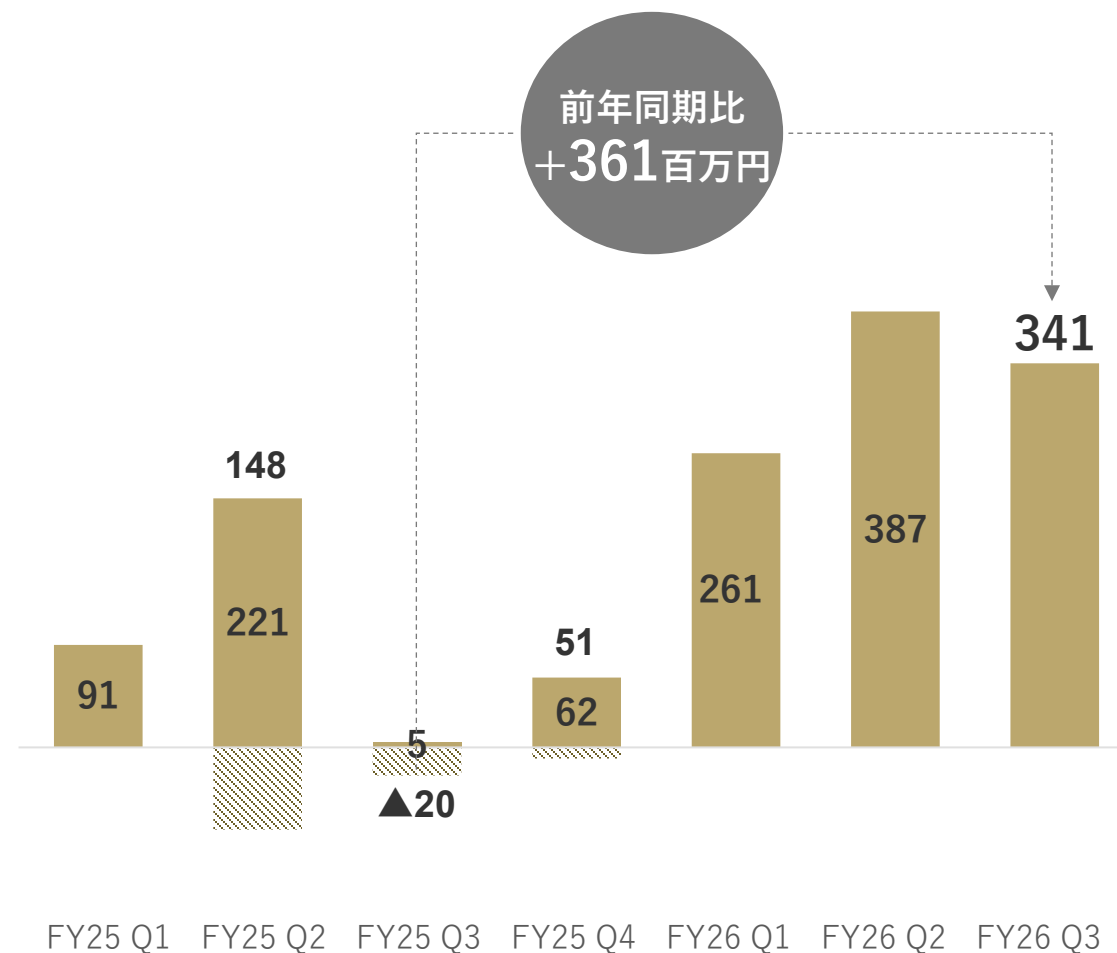
- **341百万円**で着地、**前年同期比+361百万円**の増加

ポラリファイM&A関連費用(*2)を除いたEBITDA

- **341百万円**で着地、**前年同期比+336百万円**の増加

(百万円)

■ 連結 ※ ポラリファイM&A関連費用



*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

*2 PMI関連費用および決算期の相違に伴う一時費用、並びにのれん償却額の合計

2026年11月期 第3四半期業績
連結貸借対照表

主要な増減項目

① 有形固定資産

本社移転に伴い増加

② 現預金

本社移転の影響はあるが、事業が順調に推移し現預金が増加

主要な財務指標

- 株主資本：36.4億円、純資産：40.2億円
- **自己資本比率：52.1%**とプロダクトへの投資やM&Aに機動的に対応できる財務基盤を確保

(百万円)		FY26 Q2	FY26 Q3
流動資産		3,524	3,629
②	うち、現預金	2,332	2,425
	うち、売掛金	884	969
固定資産		3,242	3,346
①	うち、有形固定資産	514	603
	うち、無形固定資産	2,509	2,542
資産合計		6,766	6,975
流動負債		1,151	1,230
	うち、短期借入金等 ^(*)	636	611
固定負債		1,744	1,728
	うち、長期借入金等 ^(*)	1,744	1,700
負債合計		2,894	2,958
純資産		3,872	4,017
	新株予約権	328	355
	株主資本	3,521	3,637
	非支配株主持分	23	24
負債・純資産合計		6,766	6,975

*1リース債務を含む。なお、短期借入金等には1年内返済予定の長期借入金を含む

目次

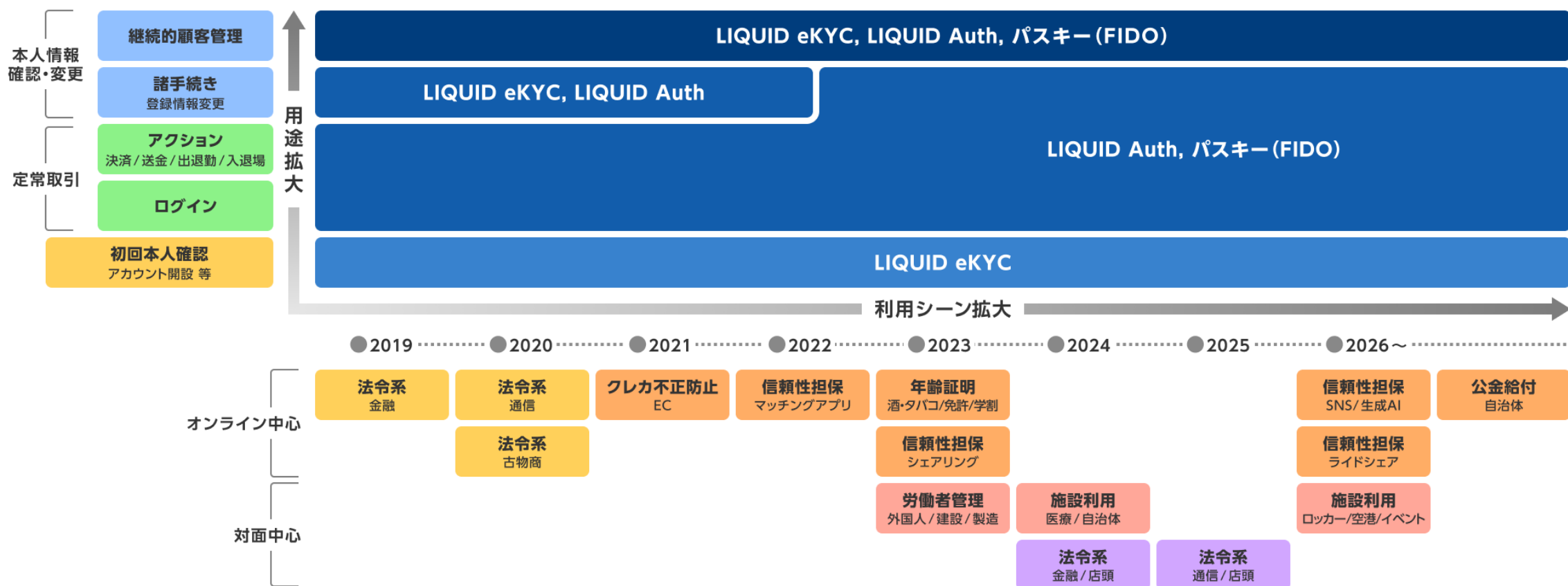
01 | 2026年11月期 3Q業績ハイライト

02 | 各種トピック

Appendix

個人認証ソリューションの利用シーンと利用用途の拡大

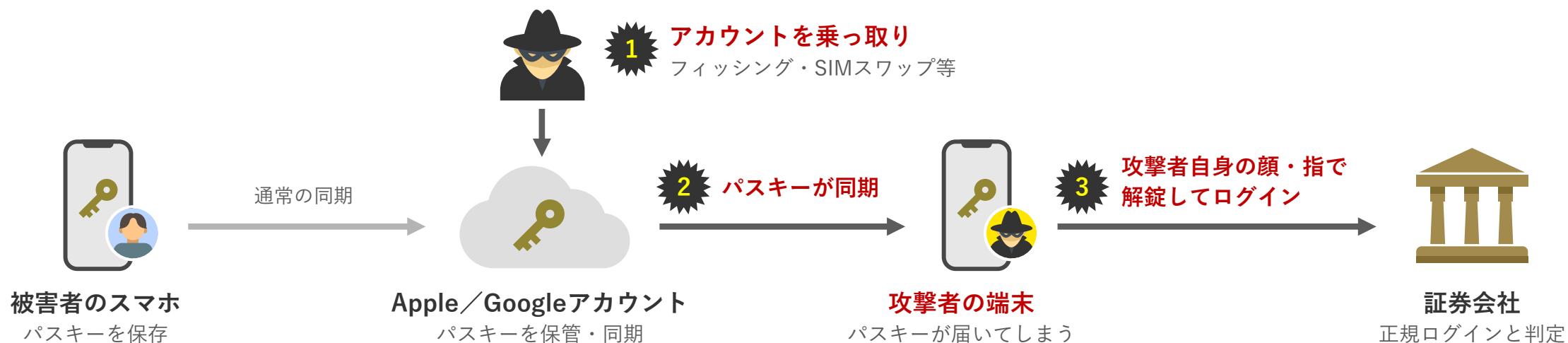
- システム開発を一切必要とせず、店頭で端末にアプリをインストールするだけで対面での本人確認を完結できる「**対面KYC専用アプリ**」の開発を開始
- 国内通信キャリアの店頭本人確認インフラとして導入が進展、ドコモショップ及びドコモ取扱店でも利用開始^(※1)



*1 URL : <https://liquidinc.asia/news/2026-10-13>

LIQUID Auth（パスキー）_パスキー普及後も続く口座乗っ取り

- AppleやGoogleのアカウントの乗っ取りを起点とした証券口座の不正取引の疑いが報道されている^(*1)
- パスキーはログインのフィッシング耐性を高めるが、その分**パスキー登録・リカバリ、パスキーの同期・共有先など、ログイン前後の手続きが相対的に狙われやすくなる**



防ぎにくい理由



要因① どの端末か分からない

新しい端末の登録を検知できず、同じパスキーがアカウント同期先の全端末で使ってしまう

対策①

端末変更
検知



要因② 端末変更時の本人認証が弱い

SMS等に依存する場合、乗っ取りと同時に突破されるおそれがある

対策②

本人認証

*1 2026年9月25日 日本経済新聞 本図は一般的な攻撃経路を示したものであり、特定事案の原因を示すものではありません

LIQUID Auth（パスキー）_Liquid独自の多要素認証ソリューション

- Liquidはアカウントが乗っ取られた場合でも、攻撃者の端末からの不正利用を防ぐことのできる独自ソリューションを提供
- 端末変更を検知する仕組み（バインディング）とAuth Faceでの本人認証（eKYC時の顔画像と照合）を組み合わせることで、不正なアクセスを抑止



通期業績予想のアップデート

- 売上高・各段階利益ともに、足許業績を踏まえ通期業績予想のレンジを上限値へ切り上げた修正を実施
- 4Qは業績連動の株式報酬費用の計上に加え、中長期の利益最大化に向けたプロダクトへの投資を実施する可能性があります

	前回予想 (2026年7月開示)	2026年11月期 通期修正業績予想	FY26Q3累計 (参考)
売上高	5,600～5,700	5,700	4,329
売上総利益	4,350～4,450	4,450	3,373
販売費および 一般管理費	4,050～4,100	4,050	2,915
EBITDA ^(*1)	1,100～1,200	1,200	995
営業利益	300～400	400	457
親会社株主に帰属する 当期純損益	200～300	300	410

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

目次

- 01 | 2026年11月期 3Q業績ハイライト
- 02 | 各種トピック

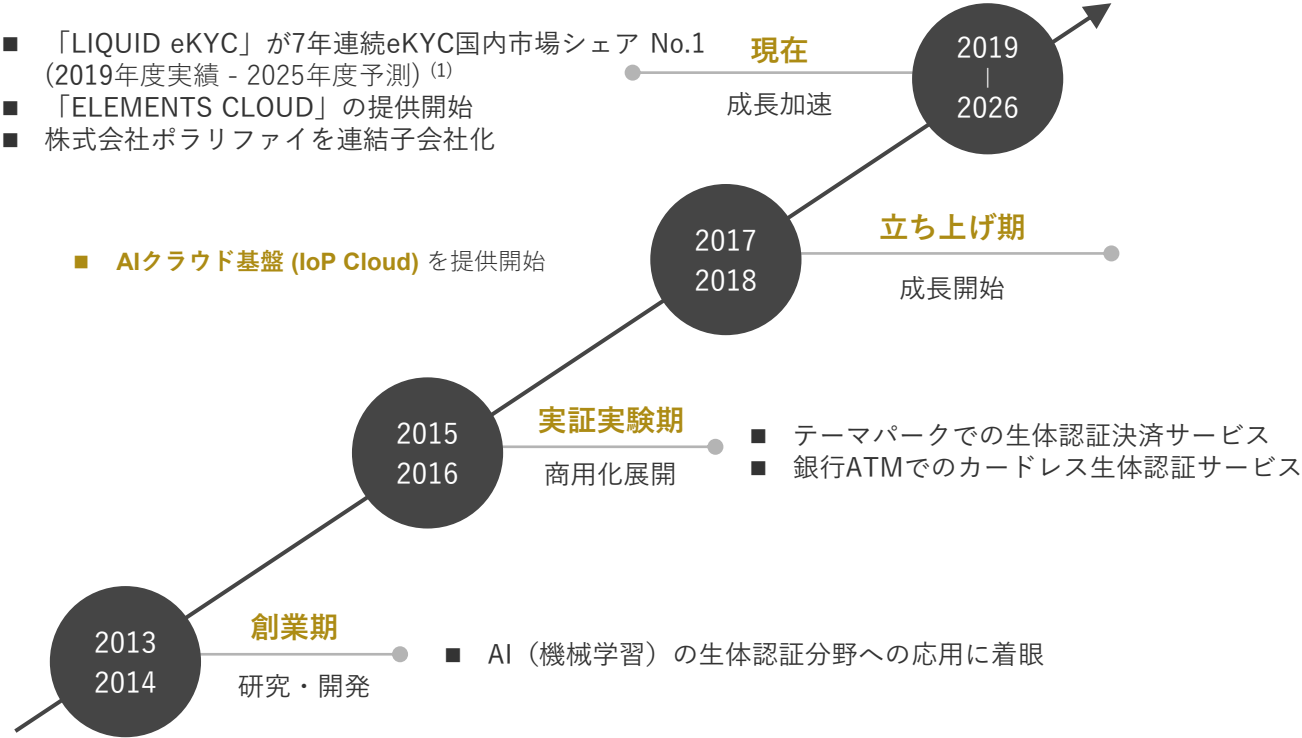
Appendix

会社概要とこれまでの歩み

会社概要

会社名	株式会社ELEMENTS ELEMENTS, Inc.	
設立	2013年12月	
代表取締役	代表取締役社長 長谷川 敬起	
グループ会社	株式会社Liquid、X PLACE株式会社、株式会社ポリファイ、株式会社IDEAL、PT. Indoliquid Technology Sukses	
従業員数	105名（2026年5月末、連結） ※正社員および有期雇用人員の合計	
事業内容	・生体認証・画像解析・機械学習技術を活用した個人認証ソリューション、衣食住における個人最適化ソリューション、並びに個人情報を管理するクラウドサービスの開発・提供	
受賞・採択	・総務省「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム」 ・経済産業省・総務省「IoT Lab Selection」第1回グランプリ ・独立行政法人中小企業基盤整備機構「Japan Venture Awards 2018」JVA審査委員長賞 ・一般社団法人東京ニュービジネス協議会「第17回 IPO大賞」 ・「日本スタートアップ大賞総務大臣賞」	

これまでの歩み



(1) ITR「ITR Market View：アイデンティティ・アクセス管理／個人認証型セキュリティ市場2026」
eKYC市場：ベンダー別売上金額シェア（2019年度実績～2025年度予測）

本資料の取り扱いについて

- 本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。
- 本資料は、日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。
- 上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社グループが事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。
- また、当社グループ以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社グループはそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。

Mission

BEYOND SCIENCE FICTION